

# PLAN・T (プラン・T)

## ～絶滅危惧海浜植物の保全活動～

岩手県立盛岡農業高等学校環境科学科 森林文化班2年  
工藤 慎也・瀧 篤人・中山 瞬喜・畠山 祥哉・岩淵 誠悟

### 1. はじめに

2011年の東日本大震災(東北太平洋沖地震)による津波は大きな被害をもたらした。津波の被害を受けたのは私たち人間だけではなく、三陸海岸に生育していた海浜植物にも及んでいた。この海浜植物の中には絶滅が危惧されている種が多数含まれている。私たちは景勝地である、十府ヶ浦海岸(岩手県野田村)の復興を目指して、絶滅が危惧されている希少な海浜植物の保護と増殖を試みた。

### 2. 研究方法

#### (1) ハマナス、ハマニンニクの栽培

圃場にハマナスとハマニンニクを植え、栽培を試みた。

#### (2) ハマベンケイソウ、ナミキソウ、エゾオオバコ、ハマナスの発芽試験

製造保存されていたハマナスとハマベンケイソウの種子に対して、「無処理」と「発芽促進処理」を行った。発芽促進処理は「傷付処理」「硫酸処理(5分間)」「硫酸処理(30分間)」の3種類の試験区を用意した。播種をする時期による発芽の違いをみるため、平成27年5月から8月末まで5回に分けて播種をした。

## (2) 発芽試験

### ① ハマナス、ハマベンケイソウ 大きい種子

セルトレイに50粒ずつ播種

(用土は黒土を使用)

無処理

傷付処理

硫酸処理  
(5分間)

硫酸処理  
(30分間)

傷付処理・・・爪切りで傷を付けた。

硫酸処理・・・硫酸で種子の表面を溶かした。

### ② ナミキソウ、エゾオオバコ 小さい種子

プランターに200粒ずつ播種

(3) ナミキソウ、エゾオオバコの発芽における最適な用土の検討

砂とバーミキュライト、ピートモス、赤玉土、鹿沼土をそれぞれ、体積比1：1に混合した土壌を用いて、発芽率の向上を目指した。

3. 結果および考察

ハマベンケイソウは8月下旬（図 1）、ナミキソウは5月下旬から6月下旬、エゾオオバコは5月上旬に播種をすることにより、高い発芽率を誘導することができた。また、ハマベンケイソウの種子を硫酸での発芽促進処理を行うことにより、発芽率を向上することができた（図 1）。ナミキソウは砂とバーミキュライトの混合土壌において、発芽と生育が促進された。

## 結果 ハマベンケイソウ

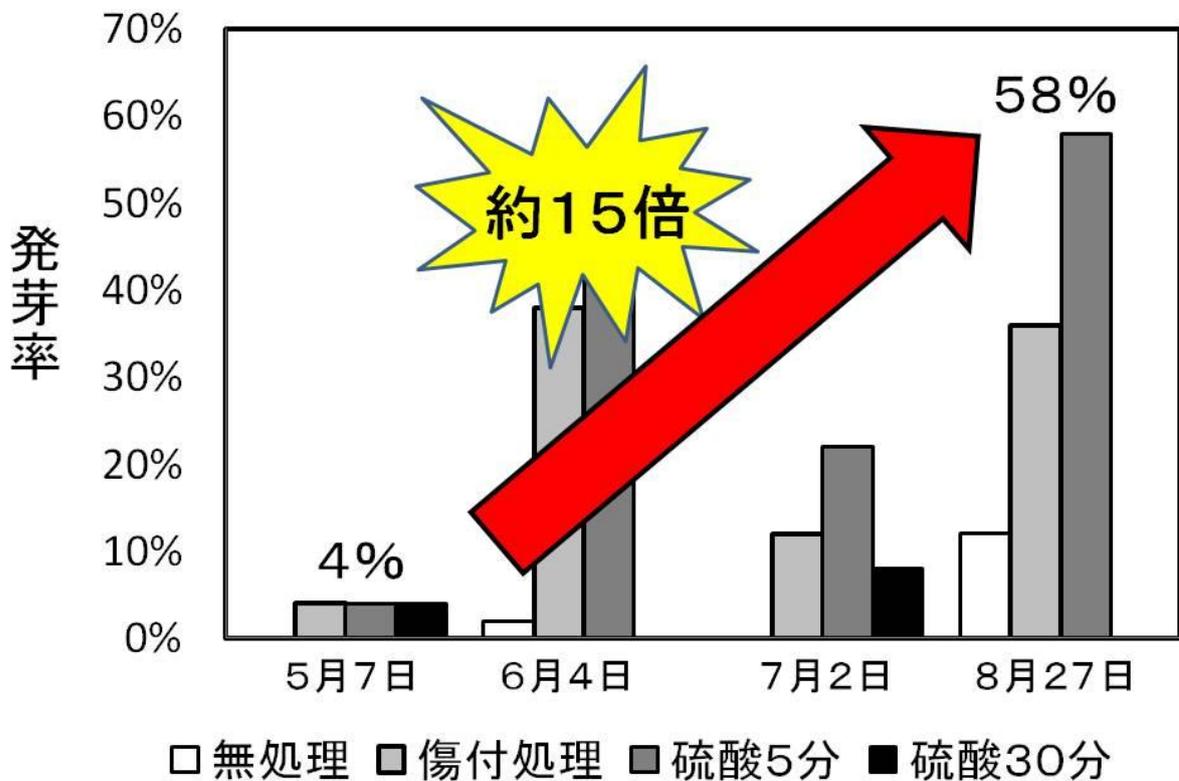


図1 ハマベンケイソウにおける播種の時期と発芽率の関係

本研究活動は岩手県立大学総合政策学部の島田直明 准教授の研究グループと連携を取りながら行っており、「種子の発芽促進処理の方法」に関するアドバイスをいただいた。また、野田村商工会・野田村観光協会の方々のご支援により、工事中の十府ヶ浦海岸の現在の様子を見学することができた。

# まとめ 播種カレンダー

